

## 二 親子の仲は格別

私が郷里の或所へ講話に行つた時、久振りぢやと云ふので、豫て知合のお爺さんがやつて来た、お爺さん頓狂な聲で話す、仲々面白い人であります。「久振りで御座いましたナ、もう何年になります」。「何年かツて、去年來なかつたゞけ、一昨年來て逢ふたではないか」。「さうで御座いましたカナ。時に御講師さん、私はこの春大儲をしましたイ」。「フンそれは結構。私はお前さんなどが、損をした損をしたつて、嫌な顰顔するのが大嫌ひ、一文も貰はいでも、儲けた儲けたといへば心持がよい」。「御講師さん、お金ではありませんぜ」。「そんなら息子でも儲けたかい」。「否へノウ、此上息子など儲けて堪まるものですか、家には人形箱ひつくりかへした程、居りますが」。「ハアそれでは何かいな」。「御本山へ参りました、御本山へ」。「成程、それは大儲け一生の心の大儲をしましたな」。私共の方では、御本山参りは、一世一代位に思つてゐます。

「何うでしやう。御眞影へ御禮をあげる時には、何とも云へぬ有難いことであつたらう。あの御扉の開いた時は、まるで生身の御開山様へお逢ひ申した心地でありましたらう。私共も度々参つて御禮をあげて左様思ふのですが……」。「如何にも左様で御座います。生身の御開山様へお逢ひした心地でした。毎日總會所へ参つて居りましたが、半日程連の者に勧められて、話の種にもと、東山見物をしました。御講師さん、京都は鮓が餘つ程安價う御座いますな」。「どんなか、私は能く知らぬが、安價い代りに龜末だらう」。「いゝへ、それが仲々甘しうがす、此處で一錢するものなら、彼所では七厘。三厘がたは安く然もその味と云つたら、とても此邊のは比較になりませぬ」。「それは何處で食べましたか」。「丁度東山を見物しての暮方、あの祇園さん

の所から、眞直に賑やかな町を行きますと、長い橋を渡つて、その先に見世物の仰山ある所があります。「フンあれが京極と云うて、京中で一番賑やかな所」。「あしこの一寸引込んだ小暗い所に、行燈つけて荷を下して居たあれです」。「あれを食べたのか、あれなら安い筈、安くて甘しかったであらう、嚙甘しかったですであらう……」。

「何故で御座います、何故安いのですか」。「それは云ふまい、云ふと氣を悪くするから」。「云ひかけて云はずに置かれては困ります、是非に教へて下さい、是非にく」。「そんなに云ふなら、教へませうが、云うて氣を悪くしてはなりませんぞ。あれは宿屋や料理屋の食残りを、貰ひ集めて造つたのぢやさうな。それで安くて甘い、魚の骨でも這入つては居なかつたか」。「へい、それはく人の食残りを集めたのですかい」。「さうぢやさうな」。「アツア云何しませう。情ない、京都三界、人の食残りを食ひに行つて、いまくしい」残念さうに頻りと、吐き出す眞似を致します。

「そんなにしたかとして、最うお腹にはありはせぬ。それぢやから、私が初めから、云ふまいと云ふたではありませんか。よし、そんなら其の氣持の悪さを、私が治してあげる。さつき、人形箱をはねかへした程、子供が居ると云はれたな。そんなに子供が澤山居れば、随分飯も食ひ零すであらう、食ひ残しもするであらう。それを一度や二度は、牛馬にもやらうが、大抵勿體ないと云うては、拾うて食べ、引受けて食べるであります。それは何うです、同じ食残りぢやありませんか」。「デモ、それは親子の仲でサア、他人の食残り和我子の食残りとは、違はいで云何します」。「成程、左様いへば左様であります、親子は現に血肉を分けた間柄ぢやから、其筈でもありません、けれど一切衆生皆親子と云うではないか」。「そうは仰しやつても、それは昔の事

で、今現に怎な譯には參りませぬ、御講師さんでも左様でありませう」と來た。

これは或人から聞いた話でありますが、云何でしやう。同じ人間でも、親子となると違つたもの。外の他人の食残りよりも、内の我子の方が、餘程ひどいかも知れぬ。時には、鼻の巢から、二本も山芋が垂れ下つて、芋かけ飯になつて居るかも知れぬ。それでも平氣でお食りなさる、そこが流石に親子ではありませぬか。如來様は、私共のため眞實の親様である、私共は如來様の眞實の子である。親子の仲はまた格別、ほかの諸佛方の想像のつかぬ約束、御慈悲があるのであります。「心を弘誓の佛地に樹て、念を難思の法界に流す」と。私共の心の中一々引受て、日々夜々、私共が難思の法界に流し込む、貪瞋煩惱の心の食残りを引受て、轉惡成善の利益にあづけしめ給ふ。お情深い眞實の親様に、護られ孚まるゝのは、何よりの仕合せ。遠慮せず氣兼ねせず、さらけ出して、大悲の親様にお任せ申すべきであります。如何に親様ぢやとて、そんな事まではと引込むのは遠慮心。そんな事位するのが、親の當然ぢやと云ふは、甚しい横着心。遠慮と横着とは、親子の間に大の禁物であります。嗚呼有難い、親なればこそと、頭の下つた處に、親様の御慈悲は残りなく流れ込んで下さる。ほんに勿體ない。